

松阪中央総合病院 後期臨床研修プログラム

1. 募集診療科

● 内科系（名）

一般内科、循環器内科、消化器内科（胃腸科）、神経内科、血液内科、放射線科

● 外科系（名）

一般外科

2. 共通カリキュラム

● 内科系

◇卒後3年目：専門分野に固定せず、内科系全般を研修する

- ・ 内科外来で診療を行う
- ・ 救急外来で内科系救急疾患の研修を行う
- ・ 病棟では、主治医として各内科系診療科の診療に参加する
- ・ 卒後4年目で日本内科学会認定医試験を受験する

◇卒後4・5年目

- ・ 内科系を幅広く研修したいレジデントは、引き続き一般内科に所属し各分野の診療を行う
- ・ 専門分野に進みたいレジデントは、日本内科学会認定医試験合格後、各診療科に固定して研修を行う
- ・ 内科系の各科専門医試験を受験できるよう臨床経験を積む

3. 各診療科個別カリキュラム

◆一般内科

内科の中で特定の科を決めずに内科全般を研修します。当院では内科系の全ての科が一つとなり様々な行事を行っていることから、症例も多彩であり、内科全体をオールラウンドに学ぶ環境が整っています。それぞれの専門医の指導の下で研修して、広く総合的に内科的疾患を診療する能力を身につけることができます。卒後4年目に日本内科学会認定医試験、卒後7年目に日本内科学会認定専門医試験の受験資格を取得することを目標としています。

◆循環器内科

一般内科の基礎知識を習得した上で、循環器疾患の入院患者および救急外来患者を適切に診療できることを目指し、診断法と管理治療技術の習得を目標とする。特に、Bed Side での診察から、心電図の判読、経胸壁および経食道心臓エコーの記録と判読、運動負荷心電図や心筋シンチグラフィの実施と判定、心臓カテーテル検査と冠動脈形成術（PTCA）の説明・施行と治療法の検討、電気生理学的検査およびペースメーカーの挿入と管理等、多岐にわたる検査治療の理論の理解および安全且つ確実な手技能力を習得する。さらに、循環器疾患は重篤な救急患者に多く、迅速かつ適切な判断能力を養う。また、胸部外科との連携の上、手術適応症例の術前検査および評価も行う。

◆胃腸科

【目的】

一般内科としての研修を行いつつ、さらに消化器診療一般について習熟する事を目的とする。

【研修内容】

卒後3年目；できる限り幅広く患者を受け持ち、様々な疾患について経験する。

外来も経験し、適切な検査の選択及び的確な診断能力を身につける。また各種緊急処置が指導医の下に行えるようにする。

回診、カンファランスを通し、病態への考察を更に高め、適切な討論が可能なようにする。

学会発表を少なくとも二回以上行うこと。

卒後4年目；各種緊急処置が一人で行えるようにし、内科研修医に対してシニヤ・レジデントとして手技や指導を行えるようにする。また消化器病理検査の基本を身につけ、消化器病理医の指導下に所見が読めるようにする。

学会発表を少なくとも一回と論文発表を少なくとも一報以上行うこと。

卒後5年目；病棟のチーフレジデントとして下のレジデントのサポートを行いつつ、病棟患者の診断、治療及び病棟のマネージメントが一人で可能なようにする。

論文発表を少なくとも二報以上行うこと。

希望者は研修後、スタッフとしてさらに以下のグループのもと研鑽を積む。

① 消化管グループ、②肝臓グループ、③胆膵グループ

◆血液内科

当院の血液内科は、院内及び院外よりの血液の異常所見を示す症例の、診断、治療を行っています。白血病、悪性リンパ腫等の腫瘍性疾患、再生不良性貧血、溶血性貧血、ITP、出血傾向などの疾患を扱い、日常診療で出会う血液疾患に対する診断、治療の研修を行います。その他自己、同種の幹細胞移植も行っております・

卒後3年目； 指導医の元、検査治療に必要な、骨髄穿刺、生検、髄液採取、抗癌剤の髄中、中心静脈カテーテル挿入などの手技を、疾患の理解とともに習熟する。

卒後4年目； 種々の疾患のマネージメントを指導医のもと行う。

卒後5年目； 一人で種々の疾患のマネージメントを行えるようになる。

◆放射線科

【目的】

放射線診療全般（診断、治療、核医学）についての基礎知識と放射線物理学、放射線生物学、放射線管理についての知識の習得

【内容】

卒後3年目； 一般内科としての研修を行いつつ、放射線診療全般について日常診療をとおして、修得してもらう。

卒後4・5年目； 診断（核医学を含む）及び治療部門をローテーションするなかで、放射線診療全般について研修する。

なお、卒後4年終了の時点で放射線科専門医認定試験一次試験の受験資格が得られる。

◆神経内科

神経内科の診療には内科全般の広い知識が必要です。引き続き内科の各サブスペシヤルな疾患を受け持つ一方で、少しずつ神経疾患の診療も経験することになります。神経学的な診察法を学び、病巣・病因診断について理解を深め、そして神経放射線、神経心理、神経生理、神経病理なども、そのスペシャリストと連携を取りながら、検査手技や結果の解釈を学んでいただきます。外来では指導医のもとで頭痛・めまい・しびれといったありふれた症候へのアプローチの仕方を理解し、病棟では内科研修医とともに、脳卒中・髄膜炎・脱髄疾患など特異的な神経疾患の診療に当たっていただきます。内科認定医および神経内科専門医を取得したあとは、興味を持てる将来の専門分野も少しずつ勉強することになります。

◆一般外科

目的；初期研修終了後、より専門性の高い知識・技術を習得し、併せて外科学会専門医取得に必要な症例を経験する

内容；研修期間は3年間を原則とし、最初の2年間は消化器一般外科、内分泌外科を中心に研修しますが、心臓血管外科・呼吸器外科も6ヶ月研修します。最後の1年間は希望の分野のコースが選択できます。

実際の診療；消化器内視鏡や腹部・乳腺・頸部の超音波検査を施行したり、読影したりします。消化器外科や乳腺内分泌外科のスタッフのサポート下に午前中の外来の担当を経験してもらいます。入院受け持ち症例の手術は原則として参加します。第一助手、第二助手、術者を消化器一般外科・内分泌外科では終了までに経験し、鏡視下手術も行えるよう経験します。

救急医療にも積極的に参加し、外科系救急患者の診療を行う。

各種のチーム医療へも参加する。(緩和医療、NST、化学療法、救急等興味あるものに)

カンファレンス；院内で行われている各種関連のカンファレンス（乳腺疾患、消化器病理、消化器術前、外科術前等）には出席し、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて診断・治療に関する知識や理論を身につけます。

学会；地方会レベルから経験をはじめ、全国学会へも発表経験を積む。また、出来ればそれらを論文として投稿発表する。

4. 後期研修終了後の進路

- ・希望に応じて、大学医局または他病院に紹介し、臨床系専門医としてさらに修練を積む
- ・希望に応じて、大学院入学試験を受験し、研究活動に入る
- ・後期研修に引き続き、当院スタッフとして採用する場合もある

取得認定施設等

日本内科学会認定医制度教育病院

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本心血管インターベンション学会研修関連施設

日本血液学会認定医研修施設

日本消化器病学会認定医制度認定施設

日本透析学会教育関連施設

日本外科学会認定医制度修練施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本神経学会専門医制度教育施設

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関

(放射線診断・放射線治療・核医学診断)

日本核医学会専門医教育病院

マンモグラフィー検診施設画像認定施設